校長室だより～燦燦～ №３６４

変化と潤い

2021.5.27

新型コロナウイルス感染防止対策のステージが上がる前から、給食の時間は、みんな前を向いて「黙食」だまって食べるという状態が続いている。この状況であれば、従来以上に放送に耳を傾けてくれるのではないか。そんなことを考えた。マイナスと思われることをプラスにかえる手だてを考えてみた。

通常は、放送委員の生徒がクイズなどを出し、楽しませてくれている。委員会からの連絡が入ることもある。ここに、校長が割って入るという企画である。考えたのは３つである。

まずは、「校長先生の３分間スピーチ」である。毎週、金曜日に、生徒向けに「校長通信」を発行している。その原稿をもとに、約３分間、話をするというものである。何もむずかしいことはない。すぐにでもスタートできる。

次が、「校長先生の部屋」である。これは毎回ゲストを呼んで、校長がインタビューし、ゲストがそれに答えながら対談をするというものである。問題はゲストである。もちろん、本校の教員となる。では誰がいいか。最初のゲストは決めてある。教頭先生である。昔から知っている仲とはいえ、生徒に聞かせたい話がたくさんある。

学級担任は、教室で給食を食べている。とすれば、担任ではない先生方や事務室、給食室の方々がよい。技能主査（用務）のＭさんのお話など、ぜひ生徒に聞かせたい。野球に打ち込んできた話、パンジーを種から育てる話など、きっと役立つはずである。本校の中庭の花々は、それはそれは見事である。教頭先生が、写真に収めホームページにアップしてくれている。

３つめが、「校長先生の人生相談」である。先日、３年生が校長室に「人生相談お願いします」とやってきた。そこからヒントを得た。放送しても差し支えない範囲で、校長が生徒の相談にのるわけである。３年生であれば、高校進学などの進路の話題などが考えられる。だが、あくまでもチャレンジ企画のような気がする。あるいは、生徒の名前をふせて、ラジオ番組のように相談にのるという形も考えられる。このほうがいいかもしれない。

決して毎日登場しようなどとは考えてはいない。週に１回であろう。出演する曜日は決めておかない方がよい。出張との関係もある。次は、いったいいつ登場するのかというちょっとした期待をもっていただいた方がよい。放送委員会の生徒のルーティンをこわさないことも大切である。

国語の教員なのだから、読書活動として本を紹介してもよい。ビブリオバトルは放送では無理か。制限が多ければ多いほど、意外とアイディアは出てくるものである。そうか、ビブリオバトルは、ライブ配信でやればよい。これからは、声による昼の放送という固定観念ではなく、映像による昼の放送を考えてもよい。そういう時代である。

さて、どれから実行に移すか。もう少し考えてみるか。コロナ禍だからこそ、学校生活に変化と潤いをもたらしたい。今の状況は、もはや日常なのである。そうであれば、もっともっとできることを考えていくべきである。